

第3学年2組 道徳指導案

指導者 井元 光子

1 主題名 涙の友情 2 (3)友情

2 主題設定の理由

(1)ねらいとする指導内容

内容項目2 (3)は、「友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。」ことである。

第3学年及び第4学年の児童は、気の合う友達同士で仲間をつくる傾向がある。そのような発達段階を考慮し、健康的な仲間集団を積極的に育成していかなければならない。

一緒にいることで安心感がもて、楽しく過ごせる間柄が友達である。友達は、社会生活、特に学校生活の中では、すべての活動の中で重要な役割を果たしている。友達と深い信頼感をもち、互いに理解し合えることは、真の友情に不可欠であり、だれもが目指すところである。

そこで、相手を信頼し、友情を育んでいくことは、人間として生きていくうえで大切なことであることに気付けるようにするとともに、友達の立場に立って考えていく姿勢を身に付けさせたいと考え、本主題を設定した。

(2)児童の実態及び分析・分類（男子12人，女子17人，計29人）

事前のワークシートによるねらいとする道徳的価値への自覚の深まりの分析基準

類	分析基準	「友情」の価値における分析基準	ワークシートの記述例
I類	自分の体験において、ねらいとする道徳的価値に気付いておらず、その価値の大切さが分かっていない。	自分の体験があるにもかかわらず、気付いていなかったり意識していなかったりする。また、友達に助けってもらった経験を思い起こすことはできているが、その時の心情を振り返ることはできていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・体験がない。 ・思い出せない。 ・何も思わなかった。 ・何も感じなかった
II類	自分の体験において、ねらいとする道徳的価値に気づき、その価値の大切さが分かっている。	友達に助けってもらった体験を思い起こし、友達への気持ちを振り返ったり、価値の大切さに気付いたりしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・やさしいな。 ・ありがとう。 ・助けってもらってうれしかった。
III類	自分の体験において、ねらいとする道徳的価値を、自分とのかかわりでとらえている。	友達に助けってもらった体験を思い起こし、「友情」の価値を自分とのかかわりで考えることができている。	<ul style="list-style-type: none"> ・私もその友達を見習おうかな。 ・私も同じことができるかな。
IV類	自分との体験において、ねらいとする道徳的価値を自分とのかかわりでとらえ、よりよい生き方をしようとする思いを高めている。	友達に助けってもらった体験を思い起こし、さらに「自分は今から～しよう」という思いを高めることができている。	<ul style="list-style-type: none"> ・これから私も友達を助けてあげよう。 ・今度、友達が困っていたら助けてあげよう。

本主題に関わる児童の実態調査 [平成18年6月1日実施，3年2組28人（1人欠席）]

<p>○私たちは、たくさんの友達と毎日生活していますね。その中で、友達に助けってもらったり、手伝ってもらったりしたことを思い出してみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達にどんなことを助けってもらったり、手伝ってもらったりしましたか。 ・その時、どんなことを思いましたか。 		
児童の体験	ワークシートの記述	類
黒板消しを手伝ってくれた。	ありがとう。	Ⅱ類
音楽ワークを一緒に配ってくれた。	ありがとう。	Ⅱ類
配る物がたくさんあった時、手伝ってくれた。	やさしいな。心が広いな。	Ⅱ類
転んでしまった時、保健室に連れて行ってくれた。	(記入なし)	Ⅰ類
経験が思い出せない。		Ⅰ類
経験が思い出せない。		Ⅰ類
給食当番の仕事を手伝ってもらった。	私も手伝わなくちゃいけないな。	Ⅲ類
窓閉めを手伝ってくれた。	(記入なし)	Ⅰ類
鉛筆を貸してもらった。	鉛筆をもってくればよかった。	Ⅰ類
プリント配りを手伝ってもらった。	私も同じようにしてあげたい。	Ⅳ類
机を一緒に運んでくれた。	ありがとう。	Ⅱ類
経験が思い出せない。		Ⅰ類
色塗りを手伝ってくれた。	やさしいな。	Ⅱ類
片付けを手伝ってくれた。	やさしいな。	Ⅱ類
転んだら「大丈夫？」と声をかけてくれた。	やさしいな。	Ⅱ類
ボールをなくした時、一緒に探してくれた。	(記入なし)	Ⅰ類
給食の時間、おぼんをもってくれた。	うれしかった。	Ⅱ類
係の仕事を手伝ってくれた。	今度がぼくが手伝ってあげよう。	Ⅳ類
食器運びを手伝ってくれた。	うれしいな。	Ⅱ類
帰りの用意を手伝ってくれた。	本当にうれしいな。	Ⅱ類
失敗してしまった時、かばってくれた。	今度は私が助けてあげよう。	Ⅳ類
ハンカチを一緒に探してくれた。	逆の立場になったら、探してあげよう。	Ⅳ類
草が抜けなかった時、手伝ってくれた。	うれしい。ありがとう。	Ⅱ類
給食当番の仕事を手伝ってくれた。	私も人に親切にしてあげよう。	Ⅳ類
一緒に探し物をしてくれた。	本当の友達だな。	Ⅱ類
テストの間違い直しを教えてくれた。	おかげで分かったよ。ありがとう。	Ⅱ類
音読カードを一緒に配ってくれた。	ありがとう。	Ⅱ類
ドリルを一緒に配ってくれた。	やさしい人だな。	Ⅱ類

道徳的価値への自覚の深まりの分析基準を基に、ワークシートの記述から児童の道徳的価値の深まりを分析・分類したところ、Ⅰ類の児童が7人、Ⅱ類の児童が15人、Ⅲ類の児童が1人、そしてⅣ類の児童は5人であった。多くの児童は、日常生活において、友達に助けってもらったり手伝ってもらったりという体験を思い起こし、その時の友達への感謝の気持ちやうれしさを記述している。さらに、Ⅳ類の児童のように、「～してもらってうれしかった。だから私も～しよう。」と、道徳的実践意欲と見られるものもある。しかし、それらの記述からは、「友情」という道徳的価値を深く考えているとは考えにくく、児童の日常においても、「友情」という価値を深くは考えずに生活をしており、価値への意識は薄いといえる。

そこで、道徳の時間において、これらの児童の体験をもう一度振り返り、じっくりと考えることで、本当の友情とはどのようなものなのかを理解できるようにさせたい。また、体験をしているにもかかわらずそれに気付いていないⅠ類の児童には、道徳の時間に扱う資料

を手がかりとし、その価値をじっくりと考えることで、自分の経験を思い起こしたり、「友情」という価値について理解できるようにさせたいと考える。

(3)資料について（「ないた赤おに」3ねんせいのどうとく 文溪堂）

人間と仲良くなりたい赤おにと、そうなるために手助けする青おにの友情を描いた話である。赤おにのために友達の青おには、「村で暴れる青おにを赤おにがやっつけて人間を守る。」という作戦を提案する。予想通り、赤おには人間と仲良くなる。しかし、青おには、赤おにが人間に疑われないようにと長い旅に出る。青おにの友情を理解した赤おには涙を流すという内容である。特に、青おにが赤おににぶたれる場面や、赤おにが手紙を読んで涙を流す場面は印象的であり、心が揺さぶられる資料であると考えられる。

本時では、上記の(2)で述べたように、ほとんどの児童が、「友情」という価値を深くは感じ取っていないという実態から、「友情」を行使した青おにの心情に視点を当て、青おにが友達である赤おにを思う気持ちを深く考えることで、ねらいとする価値に迫りたい。

3 道徳的価値の自覚を深める手だてについて

	活動のねらい	学習内容	指導の手だて
事前	・ 日常の体験について、目を向けることができるようにする。	・ ねらいとする道徳的価値について、どのような体験をし、その時どのように感じたり思ったりしたかをワークシートに記入する。	ワークシートの記述を基に、道徳的価値の自覚の深まりを分析・分類する。



	活動のねらい	学習内容	指導の手だて
導入	・ ねらいとする道徳的価値への興味・関心がもてるようにする。	・ これまでの体験を想起する。	・ これまでの体験を想起させるような発問をし、ねらいとする道徳的価値への方向付けを図る。
展開	・ 青おに、赤おにの心情を考えることで、ねらいとする道徳的価値を理解し、その大切さに気付くようにする。	・ 資料と出会う。 ・ 青おに、赤おにの心情を考える。 ・ 紙芝居、ワークシートの活用	・ 紙芝居を用い、その場面絵を追いながら青おにと赤おにの心情を考えられるようにする。
終末	・ 自分のこれまでの生活を振り返ることで、ねらいとする道徳的価値を自分とのかかわりでとらえられるようにする。 ・ 道徳的価値を自分のものとしたうえで、よりよい生き方をしようとする思いを高められるようにする。	・ 本時のまとめとして、ワークシートにねらいとする道徳的価値への思いや考えを記入する。	児童一人一人が道徳的価値の自覚を深めることができるような類（I類～IV類）に応じた発問をする。

見取り

終末のワークシート

- 支援票
- ・ 事前のワークシートによる体験・思い
 - ・ 児童の道徳的価値の自覚の深まり
 - ・ 授業における児童の発言・つぶやき

各類における基本となる発問

対象者	発問	期待される児童の発言例
I類	<ul style="list-style-type: none"> ・青おには、どうして赤おににぶたれても我慢していたのでしょうか。 ・どんな人を友達というのでしょうか。 ・〇〇さんは、今までに友達に助けってもらったことはありますか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・赤おには友達だから。 ・赤おにに人間の友達ができてほしかったから。 ・仲のいい人。助けてくれる人。 ・ある。今までに～があった。
II類	<ul style="list-style-type: none"> ・青おには、「人間と仲良くなりたいたい」と言っていた赤おにのために、お芝居をしたり旅に出たりしたけれど、〇〇さんだったらどうしますか。それはどうしてですか。 ・〇〇さんは、今までに友達に助けってもらったことはありますか。その時どう思いましたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼくは、青おににみたいなことはできないな。 ・ぼくだったら、赤おにに～しようと思う。 ・とてもうれしかった。 ・助けてくれてありがとうという気持ち。
III類	<ul style="list-style-type: none"> ・赤おにのように、友達に助けってもらったことを思い出してみよう。その時、どんなことを思いましたか。 ・〇〇さんは、今までに友達を助けたことはありますか。その時、どんなことを思いましたか。 ・これから、友達とどのようにしていこうと思えますか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・その時、とてもうれしかった。友達って大切だなと思った。 ・～があった。いい気持ちだった。 ・友達が困っていたらすぐに助けよう。
IV類	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の道徳の学習で分かったことを、これから友達と、どんな時にどのようにしていこうと思えますか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達が困っていたら、相談にのろう。 ・いつまでも友達を大切にしよう。

4 本時の学習

- (1)ねらい 友達と互いに理解し、信頼し、助け合おうとする心情を育てる。
- (2)準備 場面絵、ワークシート、資料プリント、掲示用カード、ペープサート
- (3)展開 □：中心発問

主な活動と発問	予想される児童の反応	支援
<p>1 友達に助けってもらったり、手伝ってもらった体験を想起する。</p> <p>○今までに、友達に助けってもらったり、手伝ってもらったことはありますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強がわからない時、教えてもらった。 ・忘れ物をした時、貸してもらった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前のワークシートを基に、普段の生活の中で友達に助けってもらったり、手伝ってもらったりしたことを想起させることで、本時のねらいとする価値への方向付けができるようにする。
<p>2 資料「ないた赤おに」を聞き、話し合う。</p> <p>○赤おににぶたれている時の青おにはどんな気持ちだったでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・痛いけれど、赤おにのためになりたいたいから我慢するぞ。 ・これで赤おには人間と仲良くなれるはずだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師がペープサートで両方のおにの動きを示し、児童一人一人がその様子を見ながら、青おにの気持ちをじっくりと考えることができるようにする。

<p>○青おには手紙を書きながらどんなことを思っているでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・赤おにと別れるのはさみしいけれど、赤おにのためだ。 ・赤おにはぼくの気持ちをわかってくれるだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・吹き出しに青おにの気持ちを書かせることで、青おにの友を思う気持ちを十分に感じ取らせ、ねらいとする価値に迫れるようにする。
<p>○手紙を読んで涙を流している時の赤おには、どんな気持ちだったでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・青おにに申し訳ないな。 ・大切な友達がいなくなってしまった。さみしい。 ・青おに、君のことはわすれないよ。ありがとう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの青おにの気持ちを振り返り、友を失った赤おにの悲しみや後悔、そして青おにからの友情に気付いた赤おにの心情を考えることができるようにする。
<p>3 友達に助けてもらった体験を再度思い出し、これからの自分について考える。</p> <p>○友達に助けてもらったことを思い出し、今、そのことについてどんなことを思っていますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達っていいなと思った。友達が困っていたら、助けてあげたい。 ・けんかや仲間はずれをしないで、友達と仲良くしていきたい。 ・たくさん友達をつくって、大切にしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のまとめとして、ワークシートに記入することで、友達の大切さについての価値の自覚が図れるようにする。その際、それぞれの類（Ⅰ類～Ⅳ類）の児童に補助発問をし、一人一人の児童の価値の自覚がさらに深まるようにする。
<p>4 教師の説話を聞く。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・友達に助けてもらってうれしかったことについて話をし、今後の実践への意欲付けとなるようにする。

5 評価

友達と互いに理解し、信頼し、助け合おうとすることの大切さを知り、それを自分とのかかわりで考え、さらに自分の問題としてじっくりと考えることができたか。

6 関連・発展

帰りの会の「今日のヒーロー」の場や教室内の「友達のいいところ発見コーナー」等において、友達を思いやったり友達と助け合ったりした行為を紹介し合い、友情について考える機会を設ける。また、グループ学習での協力や、困っている友達への手助けの大切さを折りにふれ指導していく。

3年	組	番	名前
----	---	---	----

わたしたちは、たくさんの友だちと毎日生活していますね。その中で、友だちに
たすけてもらったことを思い出してみましょう。

— 友だちにたすけてもらった

ないた赤おに

3年()組 名前()

赤オニクン。ニンゲンタチトハ ドコマデモ ナカヨク マジメニ
ツキアッテ タノシク クラシテ イッテ クダサイ。ボクハ、シバラク
キミニハ オ目ニ カカリマセン。 コノママ キミト ツキアイヲ
ツツケテ イケバ、ニンゲンハキミヲ ウタガウ コトガ ナイトモ
カギリマセン。 ソレデハ マコトニ ツマラナイ。

ソウ カンガエテ、ボクハ、ナガイ ナガイ タビニ デル
コトニシマシタ。ケレドモ ボクハ、イツデモ キミヲ ワスレナイ。
サヨウナラ キミ。カラダヲ ダイジニ シテ クダサイ。

ドコマデモ キミノ 友ダチ 青オニ

○青おには、手紙を書きながらどんなことを思っているでしょう。



名前

たすけてもらったことを思い出して、
どんなことを思っていますか。

